

虹の架橋

今月の題字 庵 絹代さん

(富山県富山市)
越中八尾おわら道場代表・庵進さんの奥様。令和元年の風の盆ながめ公演以来、虹の架橋も読んで下さり、親しいお付き合いを続けています。

虹の架橋「検索」で、インターネットからでもご覧いただけます。

ながめに『おわら風の盆』 九月十日(土) ながめ余興場

おわら風の盆は哀調を帯びた胡弓や三味線の音色に合わせ、踊りかぶった男女の情緒溢れる踊りが評判を呼び、人口二十万人の町に全国から二十万人以上の観光客が訪れる日本有数の祭り行事です。八尾町は聞名寺の門前町として栄えた町です。今回、ながめ余興場



令和元年8月17日のステージより

日 時	令和4年9月10日(土)
第1部 15時半開演	第2部 19時開演 (開場は30分前)
場 所	みどり市大間々町 ながめ余興場 TEL(0277)72-1968
演 目	おわら風の盆踊り (越中八尾おわら風の唄と踊り 他)
入場料	前売 1,500円 当日2,000円 (高校生以上)
主 催	・本場の聞名寺風の盆講中 ・越中八尾おわら道場 ・ながめ黒子の会

※ チケット取扱 小屋設計(1丁目)・足利屋(4丁目)・井筒屋文店(6丁目)
シイナ(7丁目)・アスク(さくらもーる内)

～ながめに『おわら風の盆』～
開催日 9月10日(土)
第1部15時半 第2部19時開演
前売1,500円 当日2,000円
前売券…小屋設計、足利屋、さくらもーるアスク、シイナ、井筒屋で



生きるという仕事

先日、さくらもーるで『星野富弘花の詩画展』を開催し、十日間で千人以上の人たちに観ていただきました。星野富弘さんは群馬大学を卒業後、中学教師になって二カ月目に部活の指導中に頸椎を損傷、首から下が動かなくなってしまうという状況に陥りました。その作品は多くの人に感動を与えています。富弘さんは著書の中で「私はまたまたこんな大けがをしました。が、だからといって私だけが特別な大変というわけではなく、人は皆、それぞれ他人にはわからない苦しみや悲しみを抱えています。大切なものは、それをどう受け止めていくかということではないでしょうか。確かに、けがをして大変な思いをしました。人にもずいぶん迷惑をかけました。でも、何も起きずに順調に生きている自分を想像すると恐ろしくなります。教師としても人間としても、何も知ってはいなかったからです。障害ゆえにできなかったことも沢山あります。でも、いのちより大切なものに気づくことができた。けがをしたおかげで、この人生ほんの少し得をしたかな」と思っています。作家の三浦綾子さんが晩

に出演する聞名寺風の盆講中・越中八尾おわら道場は、おわら風の盆の歴史と伝統をしっかりと守り続けている団体です。二〇一九年に続いて二回目となる公演では、女踊り、男踊り、唄い手、囃子、三味線、胡弓、太鼓など総勢約二十名が出演。本場のおわら風の盆を観られる貴重な公演です。是非お誘い合わせの上、ご来場をお待ちしています。前売券は、足利屋、アスク、小屋設計、井筒屋、シイナで。

世界一小さな 足利屋 トイレ美術館

今月の切り絵《325》

塙喜行さん『おわら風の盆』



大間々の山崎仁作さんご紹介で、太田の塙喜行さんの切り絵を見せてもらいました。塙さんは本場の「おわら風の盆」を見に行つて感動したそうです。三年前にながめ余興場で開催された「おわら風の盆」の公演では、公演終了後に余興場の前でおわら風の唄と演奏と踊りを披露、月夜に浮かぶ幻想的な世界にお客様は大満足でした。前回はチケットが売り切れてしまい、入場できなかったお客様もたくさんいました。今回は新型コロナウイルス対策を万全にしてお客様をお迎えします。皆様のご来場を心からお待ちしています。

年「私には死ぬという大切な仕事が残っている」とおっしゃっていました。が、死ぬということも神さまが下さる仕事で、自分の努力で死ぬるわけではなく、私にはけがをして、「死」と枕を並べて寝ているような時期もありました。でも、こうして生かされて、今、いのちが与えられている。ですから、神さまに「死ぬ」という仕事を与えられたら、「生きる」という仕事をしっかりとさせていただきます。せつかく生かされたいのちです。しまい込

まず、使い込んで良い味が出るまで、思いきり使っていきたいと思っています。『いのちの大切なもの』より
「今日という日」という富弘さんの詩があります。今日という日は二度と来ない。二度と来ない日が毎日来る。目覚めればスイッチが入れないのに、目には画像が映り、気がつけば呼吸もしている。生きていることを忘れていた。生きている。誰に感謝したら良いのだろう。今日も一日が始まった。



靖ちゃん日記

令和四年八月十六日(火)
三時半に目が覚めたら、天井がぐるぐる回っていた。ベッドから立ち上ると、吐き気。熱中症か？コロナか？と心配になった。毎朝四時から観る「暴れん坊将軍」もボーッとして内容が分らなかつた。一年間、毎日一万歩の記録をこんなことで途切れさせた。何でこんな時に歩くの？と愛妻に怒られた。朝飯も昼飯も食べず寝ていた。愛妻が何回も水や薬を持ってきてくれた。お陰で午後には体調が回復した。送り金でお基まで往復二千五百歩。まだ一万歩に全然足りない。と思った瞬間、一日一万歩を始めたのが去年の八月十二日で、目標を達成していたことに気づいた。お寺の帰りに焼きたまんじゅうを買って帰った。一気に三本食べた。普段は暴れん坊将軍に憧れ、具合が悪いと甘えん坊将軍、元気になったら食いしん坊将軍になっていた。

送られる日もいつか来る送り金
毎年、お盆の時期は、早朝にお墓を洗ってから、家族で提灯を持ってお盆様をお迎えします。お盆中は無縁仏様にもご飯をお供えしてご先祖様達と一緒に過ごし、送り盆にはキュウリの馬と茄子の牛を作って送り火を焚いてお盆様をお寺に送ります。祖父母、両親を送りながら、自分もいつか送られる人になるのだと思います。時の流れと共に、「送られる人」はいても、「送る人」がいなくなつて、長年の風習もいつか消えるかも知れません。来年もまた元気で盆様をお迎えし、送りたいと願っています。

